



く せ ん 薫 泉

学校の目標
社会の変化に自ら対応でき、豊かな心をもち、表現力豊かな国際人を目指し、次のような子どもを育成する。
・よく考え、進んで学習する子ども
・いつも元気で、しょうぶな子ども
・こころ豊かで、やさしい子ども

深める 二学期 副校長 中村正人

井上光広校長が掲げる二学期のめあて「深める二学期」の言葉を見たとき、真っ先に頭に思い浮かぶできごとがありました。それは私が五年生の担任をしていたときの、理科の授業で起きたできごとです。単元名は「ふりこのはたらき」といって、振り子が一往復する時間に関係がある条件を見付ける学習です。最初に振り子が動く様子を観察し、その後、振り子が一往復する時間を変える条件が何かを話し合います。そのときは「振り子の長さ」と「重りの重さ」「振れ幅」の三つが予想されました。当時使っていた教科書にも同様の記述があり、児童は教科書を参考にしながら、実験を進めていました。

ところが、結果をまとめている途中でそのできごとが起きました。教科書のまとめには、振り子が一往復する時間に関係する条件は「振り子の長さ」だけなのですが、「振れ幅」を調べたグループの中に、振れ幅を変えたと一往復する時間も変わったと説明したグループがあったのです。これは不思議だと思い、全グループで再度、そのグループが計画した実験方法でやってみると同様の結果が出たのです。

実は私が確かめた限り、重りが真下に落ちない角度（振り子が地面に対し水平の位置になる角度）近くの角度になる振れ幅では、「振れ幅」は振り子が一往復する時間に関係する条件となるのです。教科書はあらかじめ、振れ幅を十五度にして

ため、考察では「振り子の長さ」のみが一往復する時間に関係のある条件となっていたのです。重りを地面に対し水平の位置までもつていくことに賛否両論はあるでしょう。しかし自分たちで実験計画を立て、考察する段階でまとめられなかった結果に対し、再度、学級全体で確認したからこそ、教科書には書かれていない、一定条件下では「振れ幅」が一往復する時間に関係のある条件になりうることを見付けることができたのです。

五年生の「人と動物の誕生」の単元で記載されているメダカを飼育する一つの例として、水の循環器を付けた水槽で飼育する方法が書かれています。その方法でメダカを飼うとメダカが弱ったり、実験で観察したい卵を産まないことがあったりします。当然、メダカの個体の問題やそのときの水質も関係があるかもしれませんが、元来メダカは振動や水温の変化にも弱いので、エアポンプや水位が高い水槽は適さないと言われています。これも実際にメダカを飼ってみて改めて分かったことです。

「深める二学期」。深め方はそれぞれ違っていると思います。まずは自分で確かめ、不思議に思ったことに対し探究心をもって更に学習を進めることが、学びを深めることにつながるのではないかと感じています。

アスリート派遣事業

十月八日、土曜日の体育・健康教育授業地区公開講座では、女子バスケットボール、リオデジャネイロオリンピック元日本代表大崎佑圭選手が来校し、四年生と五年生、六年生に指導を行います。

- 時間 一時間目（八時四十五分） 四年生
- 二時間目（九時三十五分） 五年生
- 三時間目（十時四十分） 六年生

- 会場 体育館
- 保護者参観 該当学年
- 参観場所 体育館ギャラリー

十月の生活目標

友達を大切にしよう

生活指導部

二学期に入って一か月がたち、子どもたちは、学校生活リズムに戻ってきました。天候も和らぎ、過ごしやすくなってきて、休み時間になると、元気に外遊びをする姿がたくさん見られました。そこで今月の目標は「友達を大切にしよう」です。友達と関わる中で、相手の気持ちを考えて行動したり、友達となかよくなれる言葉を遣ったり、友達の良いところを積極的に見付けたり、様々な場面で思いやりをもった行動が意識してできる様に今月は指導していきます。

なかよく楽しい学校生活を送ることができるよう一人一人が心掛け、矢口小学校を明るい笑顔の溢れる学校にしていきましょう。

『なかよし班活動』

特別活動部

学校では、国語、算数などの教科の学習のほかに、特別活動の領域が設けられています。これは、集団活動を通して子どもたちの個性を伸ばし、集団の一員として自主的、実践的な態度を養うことを主な目標としています。特別活動の中の、なかよし班の活動では『異年齢交流を通して、「社会性の基礎となる部分」の「人と関わりたい」という意欲を育み、「人と関わる喜び」を自ら獲得できるようにする。』ことを目標に活動しています。

六年生が中心となり、リーダー会で打ち合わせをし、活動計画を立てて実施しています。本年度は、毎月のなかよし班遊びに加えて、全校での校外学習として多摩川へのなかよし班校外学習を予定しています。遊びや班での活動を通して、人と関わる楽しさを学んでほしいと思います。これからも子ども達がこれらの活動の中で異年齢のふれ合いや関わり合いを大切にしていけるよう見守っていきます。